

平成 24 年度 狂犬病予防注射業務関係者研修会 を開催

平成 24 年度狂犬病予防注射業務関係者研修会が 11 月 28 日（水）新潟県自治会館講堂において関係者 174 名が出席して開催された。

主催者として、新潟県獣医師会 楠原征治会長理事、共催者として、新潟県福祉保健部 北原良一生活衛生課長から開会の挨拶があり講演に入った。

行政説明では、生活衛生課の白井和也動物愛護・衛生係長が「狂犬病予防対策の考え方について（狂犬病予防ガイドライン～発生時の対応～）」と題し、国内での発症犬が確認された場合の危機管理対応（適切な対策を講じるための調査、調査結果に基づく狂犬病発生の拡大防止のための措置、正常化に向けての調査及び措置）、市町村の協力によって地域住民の安全及び不安の払拭を図る必要ため正しい情報提供が必要であると詳細な説明がなされた。

続いて、上越市はっさく動物病院 院長の山岸 浩之先生から「インドの狂犬病対策」と題してご講演をいただいた。

講演では、世界中で毎年 55,000 人が狂犬病で死亡（アジア 56%、アフリカ 44%）し、中でもインドでは年間 2 万人以上の死亡が報告され、発生の 96%が犬からの感染でありその 50%飼い犬からの感染であること。対策として「ABCプログラム（行政が犬を捕獲し、不妊、去勢手術を施し、狂犬病ワクチン接種を行い元の場所に戻す）」を積極的に実行することにより犬による咬傷事故発生及び人狂犬病症例が激減したこと。

日本での狂犬病の発生要因として不法上陸犬、コンテナ迷入動物、密輸等海外からの進入が挙げられ、対応策として犬の狂犬病予防接種率向上と業務従事者の狂犬病予防接種が重要であると解説された。

また、人、犬、猫狂犬病の発症～死亡に至る「動画」は衝撃的であり悲惨な狂犬病の脅威を訴えるもので出席者には改めて狂犬病予防対策に対する認識を再確認させるものとなりました。

講演終了後活発な質疑応答があり、盛会のうちに研修会が終了した。



行政説明 新潟県生活衛生課
白井和也 副参事



講演される 山岸浩之先生



受講風景